

第2章 データから見る高齢者を取り巻く現状

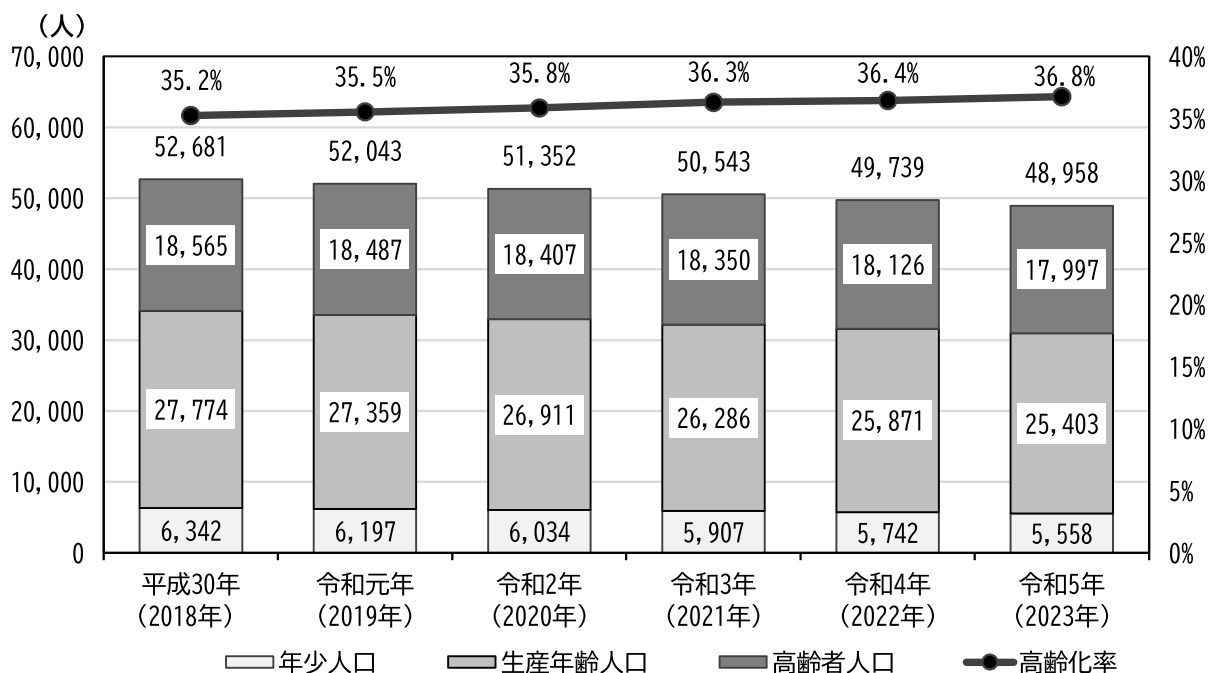
1. 統計・認定データから見る現状

(1) 人口の推移

- 総人口は引き続き減少傾向にあります。
- 高齢者人口は、平成28（2016）年をピークに減少傾向にあります。
- 高齢化率は上昇を続けており、後期高齢化率は令和4（2022）年以降増加傾向となっています。
- 第2号被保険者となる40～64歳人口は減少を続けており、高齢者一人に対する割合も減少傾向にあります。

区 分	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)
総人口	52,681人	52,043人	51,352人	50,543人	49,739人	48,958人
年少人口（15歳未満）	6,342人	6,197人	6,034人	5,907人	5,742人	5,558人
生産年齢人口（15-64歳）	27,774人	27,359人	26,911人	26,286人	25,871人	25,403人
高齢者人口（65歳以上）	18,565人	18,487人	18,407人	18,350人	18,126人	17,997人
高齢化率	35.2%	35.5%	35.8%	36.3%	36.4%	36.8%
後期高齢者人口（75歳以上）	10,366人	10,309人	10,148人	9,972人	10,112人	10,217人
後期高齢化率	19.7%	19.8%	19.8%	19.7%	20.3%	20.9%
40～64歳人口	16,173人	15,946人	15,631人	15,395人	15,225人	14,988人
高齢者一人に対する 40～64歳の割合	87.1%	86.3%	84.9%	83.9%	84.0%	83.3%

資料：三次市住民基本台帳（各年10月1日時点のデータを参照）

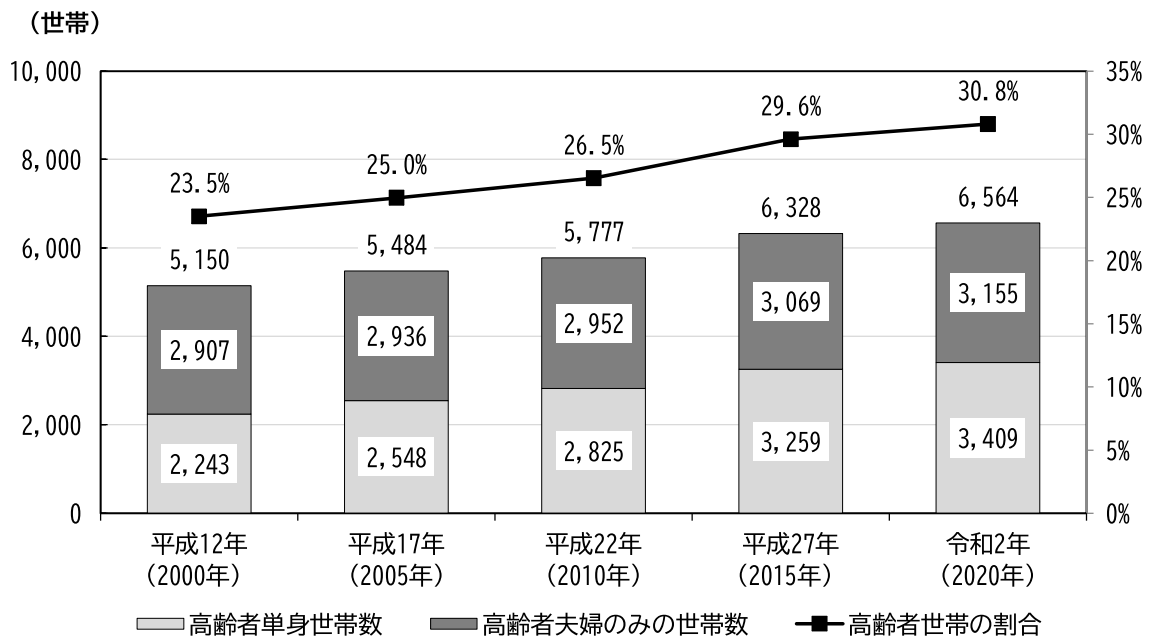


(2) 高齢者世帯の推移

- 総世帯数は引き続き、少しずつ減少していますが、高齢者世帯は、単身世帯及び夫婦のみの世帯がともにやや増加傾向にあります。

区 分	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
総世帯数	21,910世帯	21,968世帯	21,786世帯	21,376世帯	21,292世帯
高齢者世帯数	5,150世帯	5,484世帯	5,777世帯	6,328世帯	6,564世帯
高齢者単身世帯数	2,243世帯	2,548世帯	2,825世帯	3,259世帯	3,409世帯
高齢者夫婦のみの世帯数	2,907世帯	2,936世帯	2,952世帯	3,069世帯	3,155世帯
高齢者世帯の割合	23.5%	25.0%	26.5%	29.6%	30.8%
高齢者単身世帯の割合	10.2%	11.6%	13.0%	15.2%	16.0%
高齢者夫婦のみの世帯の割合	13.3%	13.4%	13.5%	14.4%	14.8%

資料：国勢調査



(3) 認定者及び認定率の推移

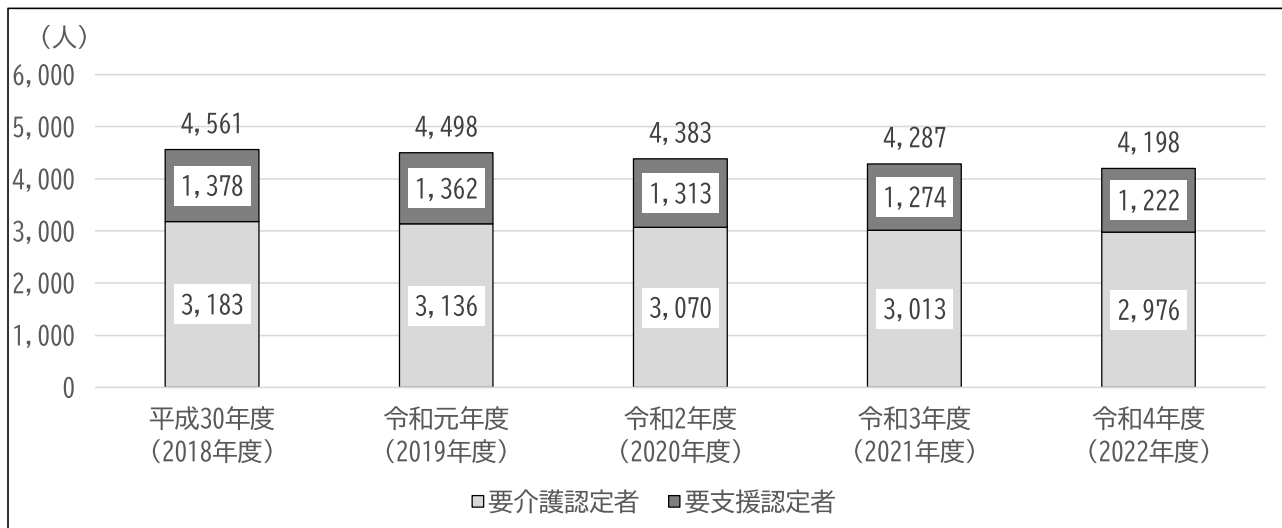
【認定者数の推移】

- 認定者数全体は引き続き、減少傾向にあります。
- 平成30(2018)年度から令和4(2022)年度までの間の減少率は、要支援認定者が11.3%、要介護認定者が6.5%となっています。
- 要介護度別に認定者数の減少率を見ると、要支援1が16.4%と最多で、次いで要介護5が11.8%となっています。一方、要介護4は2.6%の増加となっています。

区分	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	平成30年度と 令和4年度の比較
認定者計(A+B)	4,561人	4,498人	4,383人	4,287人	4,198人	▲8.0%
要支援1	872人	827人	832人	771人	729人	▲16.4%
要支援2	506人	535人	481人	503人	493人	▲2.6%
要支援認定者(A)	1,378人	1,362人	1,313人	1,274人	1,222人	▲11.3%
要介護1	907人	902人	872人	864人	840人	▲7.4%
要介護2	792人	765人	771人	755人	728人	▲8.1%
要介護3	653人	621人	600人	547人	608人	▲6.9%
要介護4	468人	463人	467人	501人	480人	2.6%
要介護5	363人	385人	360人	346人	320人	▲11.8%
要介護認定者(B)	3,183人	3,136人	3,070人	3,013人	2,976人	▲6.5%

資料：介護保険事業状況報告（各年度3月末時点データ）

※第2号被保険者も含めた認定者数



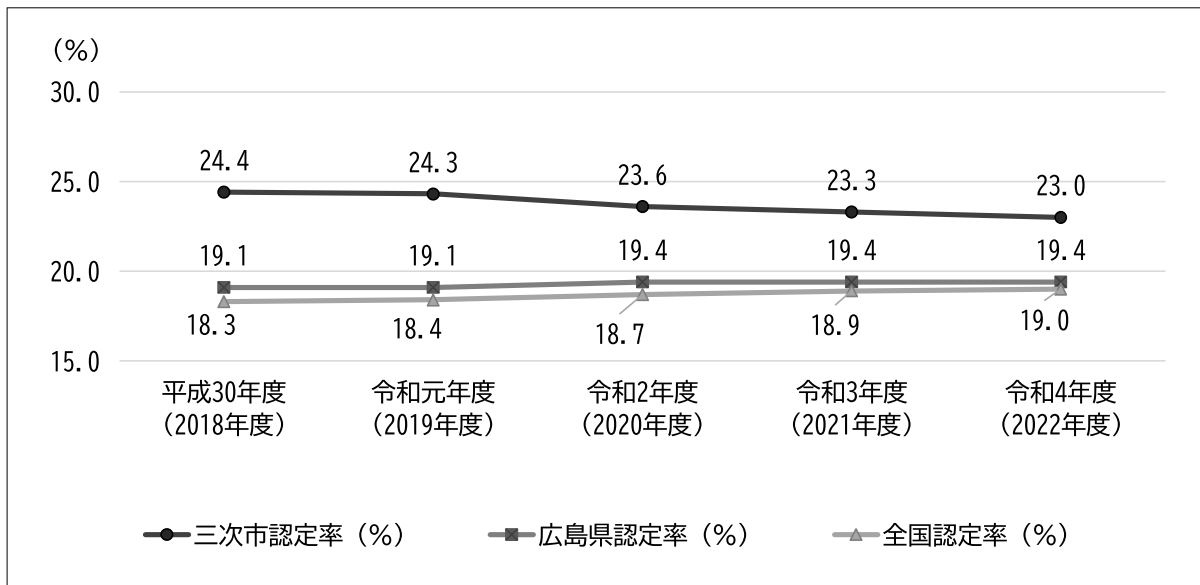
【認定率の推移】

- 認定率は全国的には増加傾向にあり、広島県では横ばいの状況にありますが、三次市は引き続き減少傾向にあります。
- しかし令和4（2022）年度の認定率を比較すると、全国より4.0%，広島県より3.6%高い状況となっています。
- 令和4（2022）年度の要介護度別認定率を見ると、要介護1が4.6%と最も高く、要支援1と要介護2の4.0%がそれに続いています。

認定率（三次市）

区 分	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
要支援1	4.7%	4.5%	4.5%	4.2%	4.0%
要支援2	2.7%	2.9%	2.6%	2.7%	2.7%
要介護1	4.9%	4.9%	4.7%	4.7%	4.6%
要介護2	4.2%	4.1%	4.1%	4.1%	4.0%
要介護3	3.5%	3.3%	3.2%	3.0%	3.3%
要介護4	2.5%	2.5%	2.5%	2.7%	2.7%
要介護5	1.9%	2.1%	1.9%	1.9%	1.7%
合計	24.4%	24.3%	23.6%	23.3%	23.0%

資料：介護保険事業状況報告（各年度3月末時点データ）



【調整済み認定率の比較】

- 第1号被保険者の性・年齢構成の影響を除外した調整済み認定率を見ると、三次市は全国、広島県に比較して0.5～0.6%高くなっています。
- 一般的に要介護状態になり始めた際に、家族がない場合は、いる場合に比べて介護保険を利用する可能性が高いと考えられます。そうした観点から、高齢者単身世帯と高齢者夫婦のみの世帯の割合を全国、広島県と比較すると、三次市は高い割合となっています。

調整済み認定率

区 分	三次市	全国	広島県
要支援1	3.7%	2.7%	3.4%
要支援2	2.4%	2.6%	2.7%
要介護1	4.0%	3.9%	3.9%
要介護2	3.3%	3.2%	2.9%
要介護3	2.4%	2.5%	2.3%
要介護4	2.1%	2.4%	2.1%
要介護5	1.5%	1.6%	1.6%
合計	19.4%	18.9%	18.8%

資料：地域包括ケア「見える化」システム（令和3（2021）年度時点）

高齢者世帯の割合

区 分	三次市	全国	広島県
高齢者単身世帯の割合	16.0%	12.1%	12.7%
高齢者夫婦のみの世帯の割合	14.8%	10.5%	11.9%

資料：国勢調査（令和2（2020）年）

※「調整済み認定率」とは、第1号被保険者の性・年齢構成が、どの地域も全国平均やある地域の一時点と同様になるように性・年齢調整を行った指標です。性・年齢調整を行うことにより、第1号被保険者の性・年齢構成以外の要素の認定率への影響について、地域間・時系列で比較がしやすくなります。

(4) 認定者における認知症の状況

- 認知症高齢者の日常生活自立度は、要介護認定を行う際の主治医意見書等に記載され、Ⅰ～Ⅳまでの基準があり、Ⅳが最も症状が重くなります。本計画では自立度Ⅰ以上（不明を除く。）の人を有病者とします。（各自立度の説明は次ページに記載しています。）
- 市全体の認知症有病者数は令和2（2020）年から増加傾向となっており、認知症有病率も増加しています。
- 自立度別で見ると、令和4（2022）年時点で、自立度Ⅱbが25.9%と多く、自立度Ⅰが19.6%、自立度Ⅲaが19.5%と続いています。
- 性別・年齢別の有病率は女性が23.7%で、男性の13.0%と比べ2倍近くになっています。75歳以上では女性の有病率が男性より高くなっています（次ページ参照）。
- 認定区分別有病者数を見ると、要介護度が高くなるとともに有病率が高くなる傾向にあります。要介護1以上では有病率が9割以上となっています（12ページ参照）。

【市全体の有病者数及び率の推移】

区 分	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)
認知症有病者数 (人) 【A】	4,258	4,216	4,063	4,224	4,310
認知症有病率 (%)	82.4	82.5	81.9	83.5	85.1

資料：地域包括ケア「見える化」システム（各年10月末時点）

※認知症有病率：認知症有病者数【A】÷認定者数合計【B】

認知症有病者数：認定者数合計から自立度（自立）を除いた人数

【認知症高齢者の日常生活自立度】

区 分	平成30年（2018年）		令和元年（2019年）		令和2年（2020年）		令和3年（2021年）		令和4年（2022年）	
	認定者数	割合	認定者数	割合	認定者数	割合	認定者数	割合	認定者数	割合
自立度（自立）	909人	17.6%	895人	17.5%	899人	18.1%	834人	16.5%	755人	14.9%
自立度（Ⅰ）	1,122人	21.7%	1,087人	21.3%	1,017人	20.5%	1,051人	20.8%	993人	19.6%
自立度（Ⅱa）	345人	6.7%	348人	6.8%	338人	6.8%	332人	6.6%	340人	6.7%
自立度（Ⅱb）	1,241人	24.0%	1,267人	24.8%	1,206人	24.3%	1,307人	25.8%	1,312人	25.9%
自立度（Ⅲa）	917人	17.7%	898人	17.6%	899人	18.1%	913人	18.1%	990人	19.5%
自立度（Ⅲb）	274人	5.3%	290人	5.7%	287人	5.8%	313人	6.2%	336人	6.6%
自立度（Ⅳ）	320人	6.2%	279人	5.5%	278人	5.6%	283人	5.6%	310人	6.1%
自立度（Ⅴ）	39人	0.8%	47人	0.9%	38人	0.8%	25人	0.5%	29人	0.6%
認定者数合計【B】	5,167人	100.0%	5,111人	100.0%	4,962人	100.0%	5,058人	100.0%	5,065人	100.0%

資料：地域包括ケア「見える化」システム（各年10月末時点）

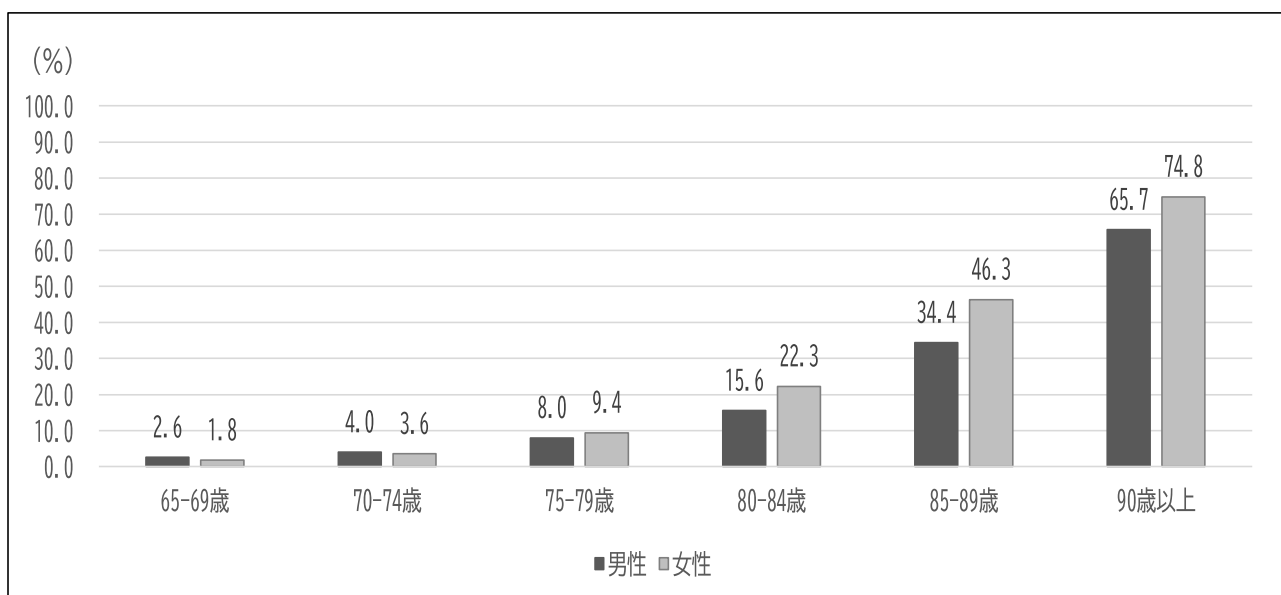
【認知症高齢者の日常生活自立度】

自立度	概要
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している状態
II a	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが <u>家庭外</u> で見られるが、誰かが注意していれば自立できる状態（たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまで出来たことにミスが目立つ等）
II b	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが <u>家庭内</u> で見られても、誰かが注意していれば自立できる状態（服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等）
III a	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが <u>日中</u> を中心に見られ、介護を必要とする状態
III b	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが <u>夜間</u> を中心に見られ、介護を必要とする状態
IV	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが <u>頻繁</u> に見られ、常に介護を必要とする状態
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする状態（せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等）

【性別・年齢別の第1号被保険者有病率】

区分	平均	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳	85-89歳	90歳以上
男性	13.0%	2.6%	4.0%	8.0%	15.6%	34.4%	65.7%
女性	23.7%	1.8%	3.6%	9.4%	22.3%	46.3%	74.8%
計	19.2%	2.2%	3.8%	8.8%	19.5%	42.3%	72.6%

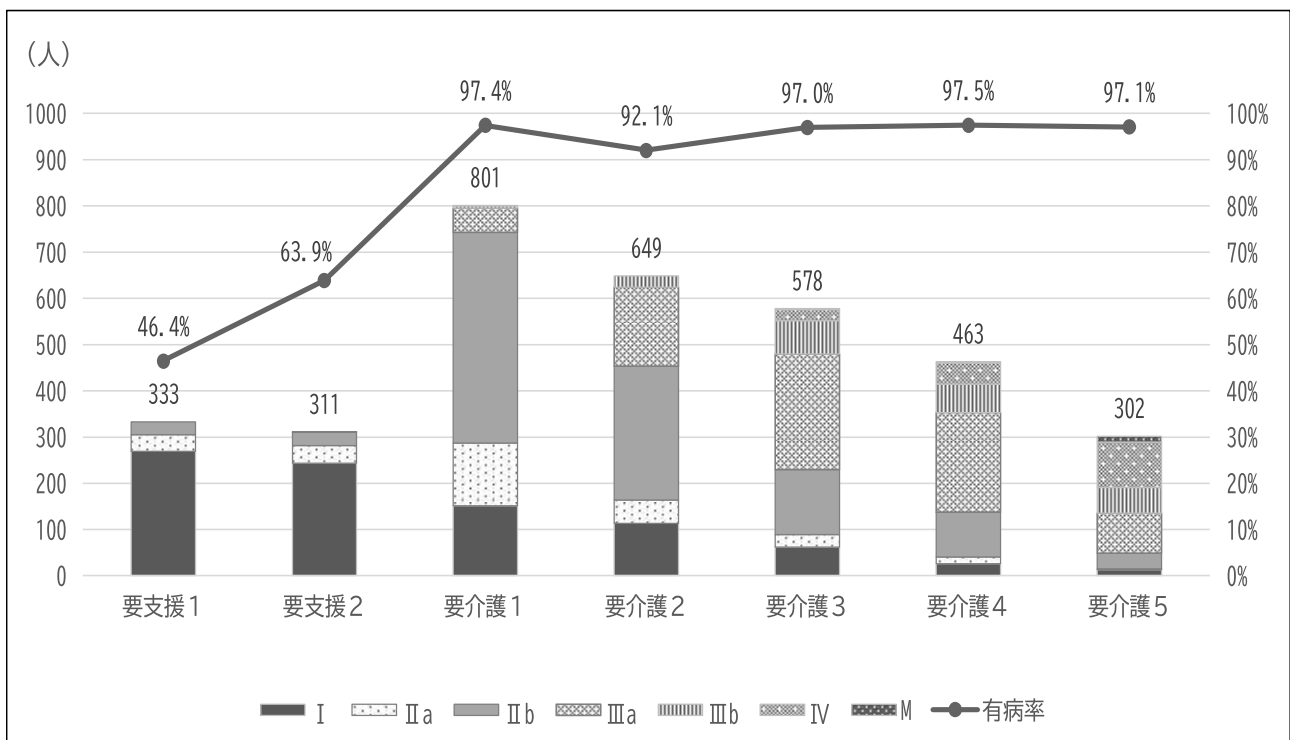
資料：三次市住民基本台帳及び介護認定データから算出（令和5（2023）年3月末時点）
 ※住所地特例者は除いています。



【認定区分別の第1号被保険者有病者数及び率】

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
自立	383人	175人	18人	53人	18人	12人	8人	667人
I	269人	243人	151人	113人	62人	26人	13人	877人
IIa	36人	38人	136人	51人	27人	14人	2人	304人
IIb	28人	29人	456人	289人	141人	97人	34人	1,074人
IIIa	0人	1人	52人	171人	250人	216人	87人	777人
IIIb	0人	0人	5人	25人	71人	61人	55人	217人
IV	0人	0人	1人	0人	25人	46人	98人	170人
M	0人	0人	0人	0人	2人	3人	13人	18人
不明	1人	1人	3人	3人	0人	0人	1人	9人
総計	717人	487人	822人	705人	596人	475人	311人	4,113人
有病者数	333人	311人	801人	649人	578人	463人	302人	3,437人
有病率	46.4%	63.9%	97.4%	92.1%	97.0%	97.5%	97.1%	83.6%

資料：三次市住民基本台帳及び介護認定データから算出（令和5（2023）年3月末時点）
 ※住所地特例者は除いています。



(5) 圏域別データ

【日常生活圏域別の各データ及び経年比較（1号被保険者に対する認知症有病率）】

区分	市全体		北部 (君田, 布野, 作木)		西部 (三次, 河内, 十日市, 粟屋)	
	令和元年度 (2019年度)	令和4年度 (2022年度)	令和元年度 (2019年度)	令和4年度 (2022年度)	令和元年度 (2019年度)	令和4年度 (2022年度)
① 総人口	51,507人	49,106人	4,161人	3,783人	16,572人	16,122人
② 高齢者人口	18,443人	18,024人	1,957人	1,847人	5,166人	5,100人
③ 高齢化率	35.8%	36.7%	47.0%	48.8%	31.2%	31.6%
④ 被保険者数	18,294人	17,911	1,933人	1,823人	5,111人	5,054
⑤ 認定者数	4,417人	4,113人	524人	466人	1,186人	1,136人
⑥ 認定率	24.1%	23.0%	27.1%	25.6%	23.2%	22.5%
⑦ 認知症有病者数	3,577人	3,437人	431人	393人	979人	929人
⑧ 認知症有病率	19.6%	19.2%	22.3%	21.6%	19.2%	18.4%

区分	中部 (八次, 神杉, 和田, 田幸, 川西, 酒屋, 青河)		南部 (川地, 三和)		東部 (三良坂, 吉舎, 甲奴)	
	令和元年度 (2019年度)	令和4年度 (2022年度)	令和元年度 (2019年度)	令和4年度 (2022年度)	令和元年度 (2019年度)	令和4年度 (2022年度)
① 総人口	17,137人	16,541人	4,525人	4,169人	9,112人	8,491人
② 高齢者人口	5,133人	5,189人	2,180人	2,090人	4,007人	3,798人
③ 高齢化率	30.0%	31.4%	48.2%	50.1%	44.0%	44.7%
④ 被保険者数	5,101人	5,179	2,173人	2,081人	3,976人	3,774人
⑤ 認定者数	1,124人	1,075人	567人	535人	1,016人	901人
⑥ 認定率	22.0%	20.8%	26.1%	25.7%	25.6%	23.9%
⑦ 認知症有病者数	867人	885人	462人	459人	838人	771人
⑧ 認知症有病率	17.0%	17.1%	21.3%	22.1%	21.1%	20.4%

(参考) 各データの資料, 算出方法について

区分	資料, 算出方法
① 総人口	三次市住民基本台帳 (令和5(2023)年3月末時点)
② 高齢者人口	三次市住民基本台帳 (令和5(2023)年3月末時点)
③ 高齢化率	②÷①
④ 被保険者数	三次市住民基本台帳及び介護認定データ (令和5(2023)年3月末時点)
⑤ 認定者数	三次市住民基本台帳及び介護認定データ (令和5(2023)年3月末時点)
⑥ 認定率	⑤÷④
⑦ 認知症有病者数	三次市住民基本台帳及び介護認定データ (令和5(2023)年3月末時点) ※認定者数から自立度(自立)を除いた人数
⑧ 認知症有病率	⑦÷④

※住所地特例者は除いています。

※データは他の市町村の施設等の入所者が入っていないため、住民基本台帳、地域包括ケア「見える化」システム及び介護保険事業報告の数値が一致しません。

2. 「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」から見る現状

(1) 調査概要

区分	内容
調査目的	高齢者の暮らしや健康状態（運動器機能・転倒リスク・閉じこもり・口腔機能・認知機能等）を分析し、地域の現状や課題、潜在的ニーズを把握することを調査の目的としています。
調査対象者	市内在住の65歳以上の一般高齢者及び要支援認定者のうち、4,000人を無作為抽出
調査期間	令和5(2023)年1月～令和5(2023)年2月
調査方法	郵送による調査票の配布及び回収
回答数	3,028人（回答率：75.8%）

(2) 主な調査結果

掲載している設問はすべてn=3,028となっています。また、結果については端数処理及び複数回答により合計が100%にならない場合があります。

<生活機能評価における各機能低下リスク保有者（機能低下者）の状況>

厚生労働省の定める基本チェックリスト及び判定基準並びに介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（以下「ニーズ調査」という。）実施の手引きに準じて算出しました。

【日常生活圏域別】各種機能低下リスク保有者（機能低下者）

区 分	三次市全体	北部	西部	中部	南部	東部
生活機能全般	23.3%	23.7%	22.4%	22.0%	28.0%	23.3%
運動器機能	35.8%	37.0%	34.3%	33.6%	42.3%	36.1%
口腔機能	25.5%	22.5%	24.4%	25.5%	26.9%	27.2%
閉じこもり	6.9%	8.5%	5.8%	6.1%	8.8%	7.6%
認知機能	57.7%	62.3%	56.3%	56.6%	57.7%	58.6%
転倒リスク	39.7%	43.7%	35.8%	38.0%	43.4%	42.6%
社会的役割※	94.7%	95.3%	94.7%	94.6%	95.3%	94.2%

※社会的役割とは、他人や社会との付き合いに関する活動能力のこと。

- 三次市全体の「生活機能全般」のリスク保有者率は23.3%となっています。日常生活圏域別に見ると、南部が28.0%と最も高く、中部が22.0%と最も低くなっています。
- 他の機能を見ると、「社会的役割」のリスク保有者率が95%前後と非常に高くなっています。これは新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、外出を控えたことが原因と考えられます。次に高いのは「認知機能」のリスク保有者率で、三次市全体が57.7%であり、日常生活圏域別では北部が62.3%と最も高くなっています。半数以上が認知症のリスクを保有している点は注視する必要があります。
- それに次いで、「転倒リスク」や「運動器機能」など身体的なリスクを抱えた人が40%前後存在しています。

【年齢別】各種機能低下リスク保有者（機能低下者）

区分	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳	85-89歳	90歳以上
生活機能全般	10.5%	15.6%	18.8%	28.5%	49.8%	71.5%
運動器機能	24.1%	24.8%	33.7%	43.6%	63.8%	74.5%
口腔機能	18.0%	21.1%	27.5%	28.5%	35.9%	41.6%
閉じこもり	1.9%	4.0%	4.6%	6.6%	17.1%	35.8%
認知機能	49.8%	53.2%	58.0%	63.8%	70.8%	68.6%
転倒リスク	31.9%	32.1%	39.8%	48.0%	55.2%	56.2%
社会的役割	97.7%	96.3%	96.2%	93.4%	87.6%	84.7%

- 各種機能低下リスクを年齢別に見ると、全体的には加齢とともにリスク保有者率が高くなる傾向がみられます。「認知機能」は80歳以上の6割を超える方がリスク保有者となり、「運動器機能」は85歳以上の6割を超える方がリスク保有者となっています。

【性別】各種機能低下リスク保有者（機能低下者）

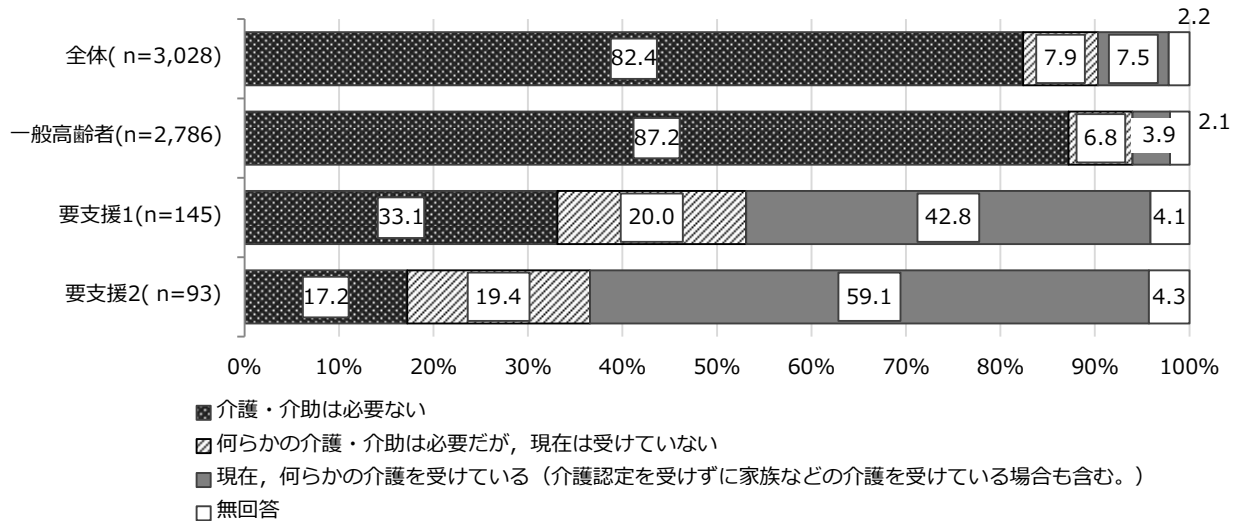
区分	男性	女性
生活機能全般	21.5%	24.7%
運動器機能	30.7%	39.8%
口腔機能	24.8%	25.9%
閉じこもり	5.1%	8.3%
認知機能	59.2%	56.4%
転倒リスク	39.1%	40.1%
社会的役割	95.1%	94.4%

- 性別では、男性の「認知機能」と「社会的役割」のリスク保有者率が女性よりやや高くなっていますが、他のリスク保有率は女性の方が高くなっています。特に「運動器機能」は、男性30.7%に対し女性は39.8%と高くなっています。

<各設問からの状況>

問：あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか（単数回答）

・全体では「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が7.9%、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が7.5%などとなっており、現在介護・介助を受けている人と、将来的に必要となる人を合わせると、15.4%となっています。



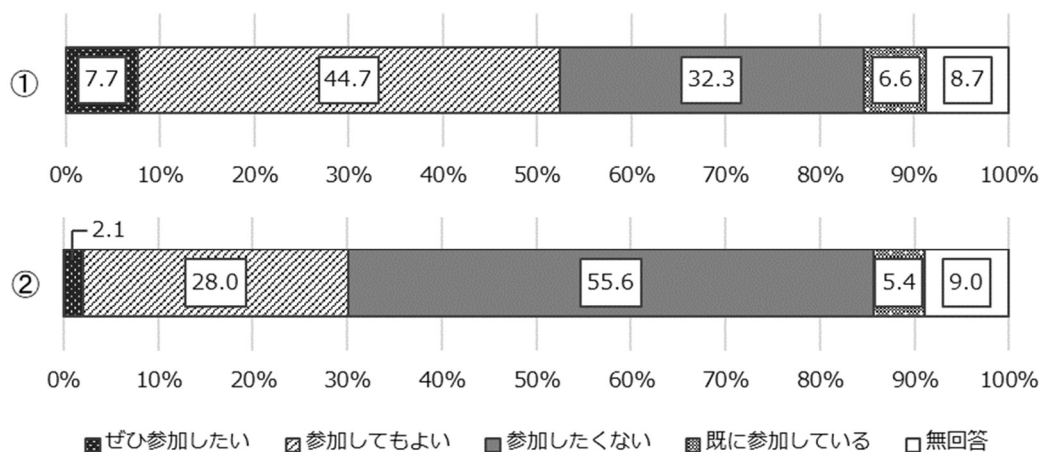
問：地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加してみたいと思いますか（単数回答）

（①参加者として参加したい、②お世話役として参加したい）

・「①参加者として参加したい」では、「参加してもよい」が44.7%で最も多く、次いで「参加したくない」が32.3%、「ぜひ参加したい」が7.7%などとなっています。

・「②お世話役として参加したい」では、「参加したくない」が55.6%で最も多く、次いで「参加してもよい」が28.0%、「既に参加している」が5.4%などとなっています。

・①と②との関係を見ると、「参加してもよい」と活動への参加の意向を示していても、そのうちお世話役としては「参加したくない」とする回答が45.7%となっています



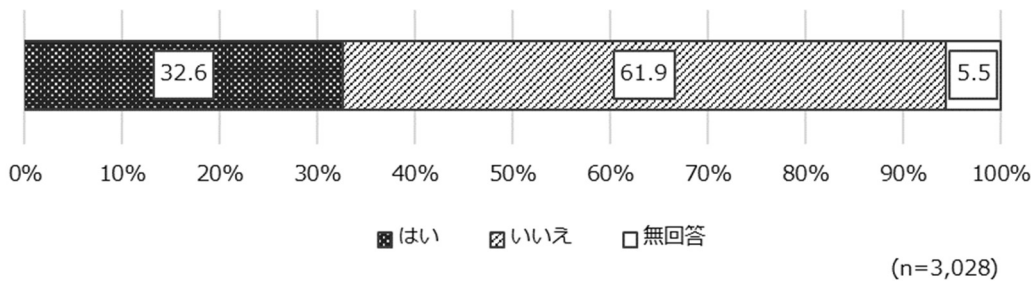
(n=3,028)

クロス集計【活動参加意欲×活動の企画・運営参加意欲】

		全体	ぜひ参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
①	② 全体 (n=3028)	100.0%	2.1%	28.0%	55.6%	5.4%	9.0%
	ぜひ参加したい (n=233)	100.0%	24.9%	49.4%	18.0%	4.7%	3.0%
	参加してもよい (n=1353)	100.0%	0.3%	49.8%	45.7%	2.1%	2.1%
	参加したくない (n=977)	100.0%	0.0%	1.8%	97.3%	0.2%	0.6%
	既に参加している (n=201)	100.0%	1.0%	13.9%	23.9%	58.2%	3.0%
	無回答 (n=264)	100.0%	0.0%	4.5%	9.1%	1.5%	84.8%

問：認知症に関する相談窓口を知っていますか（単数回答）

「いいえ」が61.9%で、「はい」が32.6%となっており、相談窓口の認知度が低いことが伺えます。

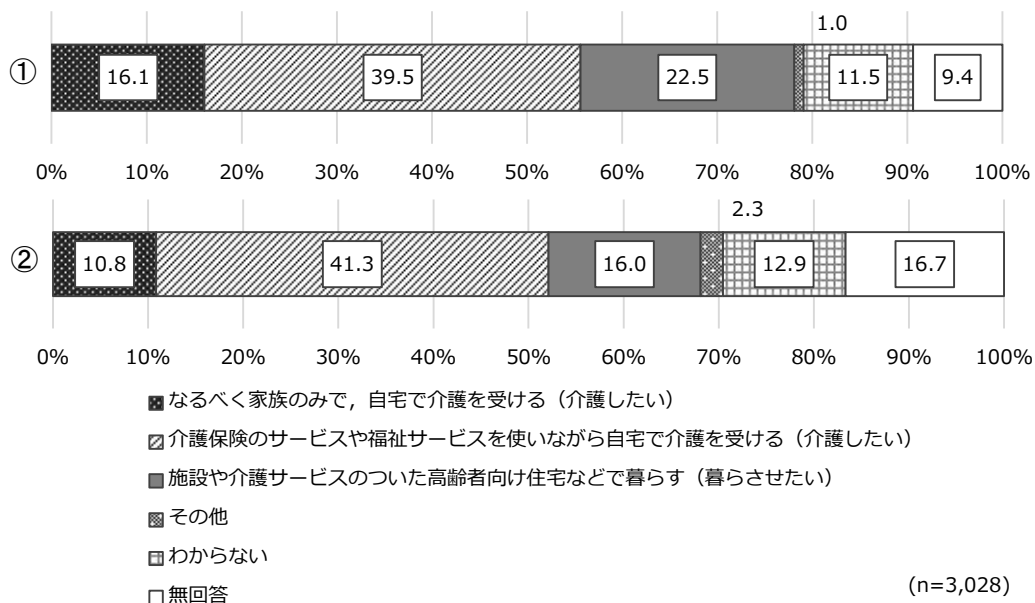


問：介護が必要となった場合、どこで介護を受けたいと思いますか（単数回答）

①自身に介護が必要となった場合、②家族に介護が必要となった場合

・「①自身に介護が必要となった場合」では、「介護保険のサービスや福祉サービスを使いながら自宅で介護を受ける」が39.5%で最も多く、次いで「施設や介護サービスのついた高齢者向け住宅などで暮らす」が22.5%、「なるべく家族のみで、自宅で介護を受ける」が16.1%などとなっています。

・「②家族に介護が必要となった場合」では、「介護保険のサービスや福祉サービスを使いながら自宅で介護したい」が41.3%で最も多く、次いで「施設や介護サービスのついた高齢者向け住宅などで暮らさせたい」が16.0%、「なるべく家族のみで、自宅で介護したい」が10.8%などとなっています。



問:家族構成をお教えてください(単数回答)

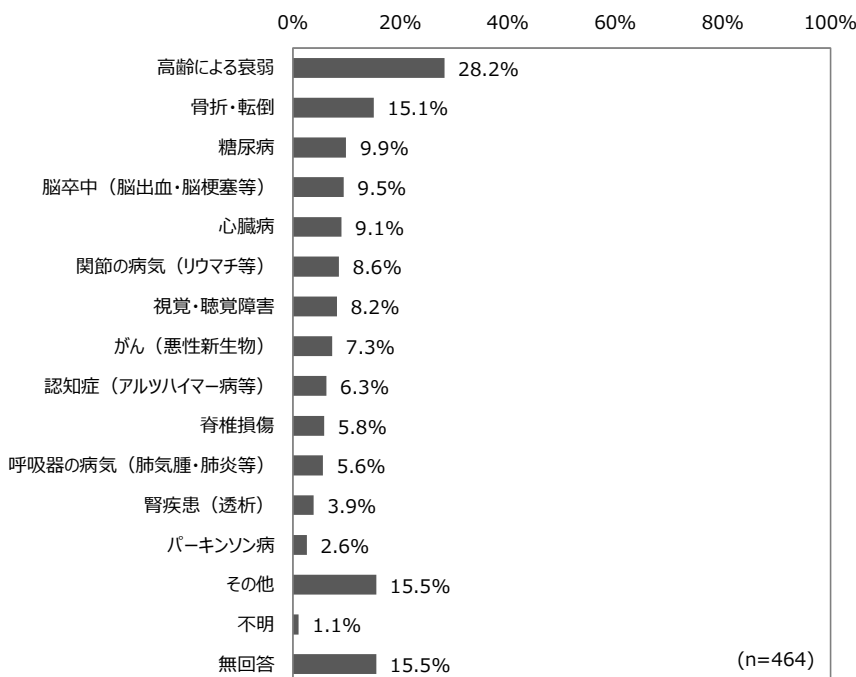
- ・認定状況別の家族構成は、「要支援1」では、「1人暮らし」が40.7%で最も多く、次いで「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が20.0%となっています。
- ・「要支援2」では、「1人暮らし」が28.0%と多く、それに「息子・娘との2世帯」が24.7%、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が21.5%と続いています。
- ・「一般高齢者」では、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が38.7%と最も多く、「1人暮らし」が18.9%などとなっています。

クロス集計【認定状況×家族構成】

	全体	1人暮らし	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	息子・娘との2世帯	その他	無回答
全体 (n=3028)	100.0%	20.2%	37.2%	4.1%	16.9%	19.3%	2.3%
要支援1 (n=145)	100.0%	40.7%	20.0%	1.4%	18.6%	16.6%	2.8%
要支援2 (n=93)	100.0%	28.0%	21.5%	2.2%	24.7%	19.4%	4.3%
一般高齢者 (n=2786)	100.0%	18.9%	38.7%	4.3%	16.5%	19.4%	2.2%
不明 (n=4)	100.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%

問:介護・介助が必要になった主な原因は何ですか(複数回答)

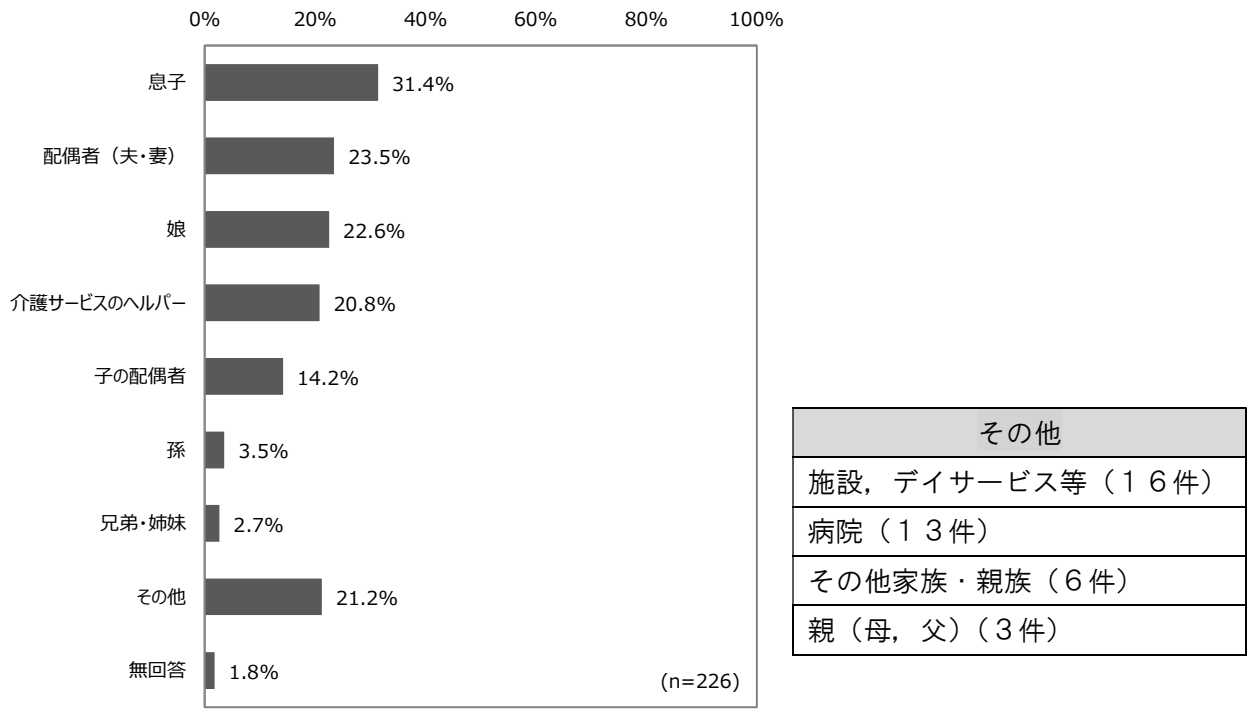
- ・「高齢による衰弱」が28.2%で最も多く、次いで「骨折・転倒」が15.1%、「糖尿病」が9.9%などとなっています。
- ・「その他」15.5%の内訳は、「肩・腰・膝等の痛み」が10件、「歩行困難」が5件などとなっています。



その他
肩・腰・膝等の痛み(10件)
歩行困難(5件)
精神病(3件)
高血圧(2件)
てんかん(2件)
脊柱管狭窄症(2件)

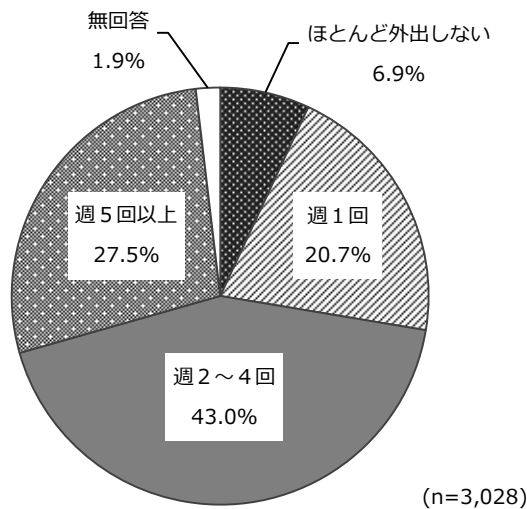
問：主にどなたの介護，介助を受けていますか（複数回答）

・「息子」が31.4%で最も多く，次いで「配偶者（夫・妻）」が23.5%，「娘」が22.6%などとなっています。
 ・「その他」21.2%の内訳は，「施設，デイサービス等」が16件，「病院」が13件などとなっています。



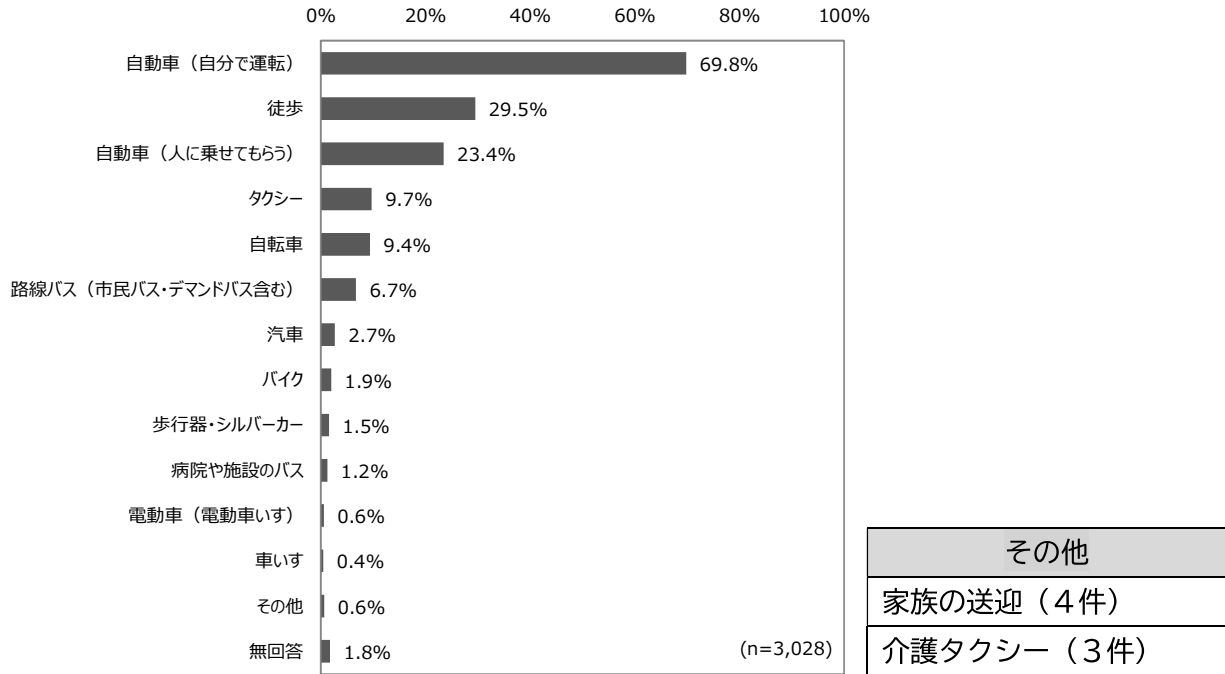
問：週に1回以上は外出していますか（単数回答）

・「週2～4回」が43.0%で最も多く，次いで「週5回以上」が27.5%，「週1回」が20.7%などとなっています。



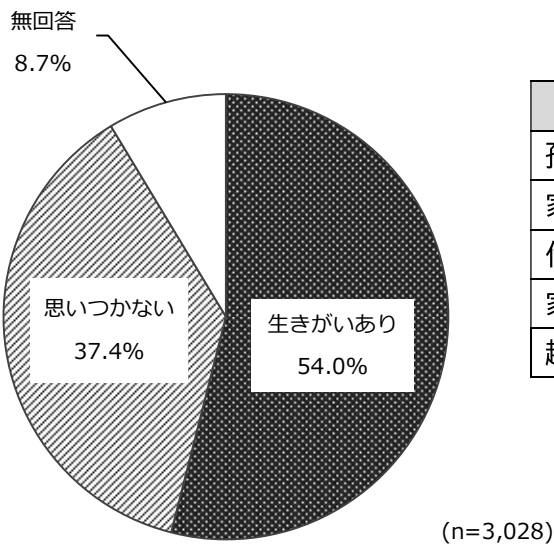
問：外出する際の移動手段は何ですか(複数回答)

・「自動車（自分で運転）」が69.8%で最も多く、次いで「徒歩」が29.5%、「自動車（人に乗せてもらう）」が23.4%などとなっています。



問：生きがいがありますか（単数回答）

・「生きがいあり」が54.0%と多く、「思いつかない」が37.4%となっています。
 ・生きがいの内訳としては、「孫やひ孫と接すること、成長を見守ること」が417件、「家庭菜園、畑仕事」が271件などとなっています。

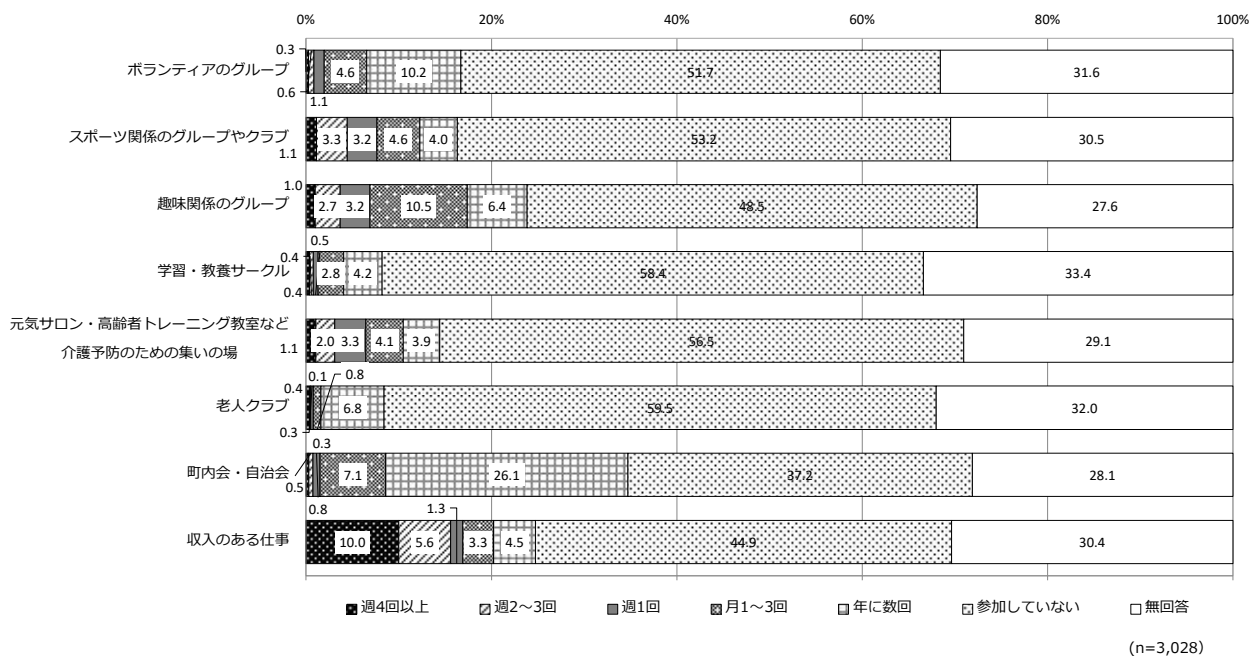


具体例
孫やひ孫と接すること、成長を見守ること（417件）
家庭菜園、畑仕事（271件）
仕事（109件）
家族と過ごすこと、サポートすること（94件）
趣味（72件）

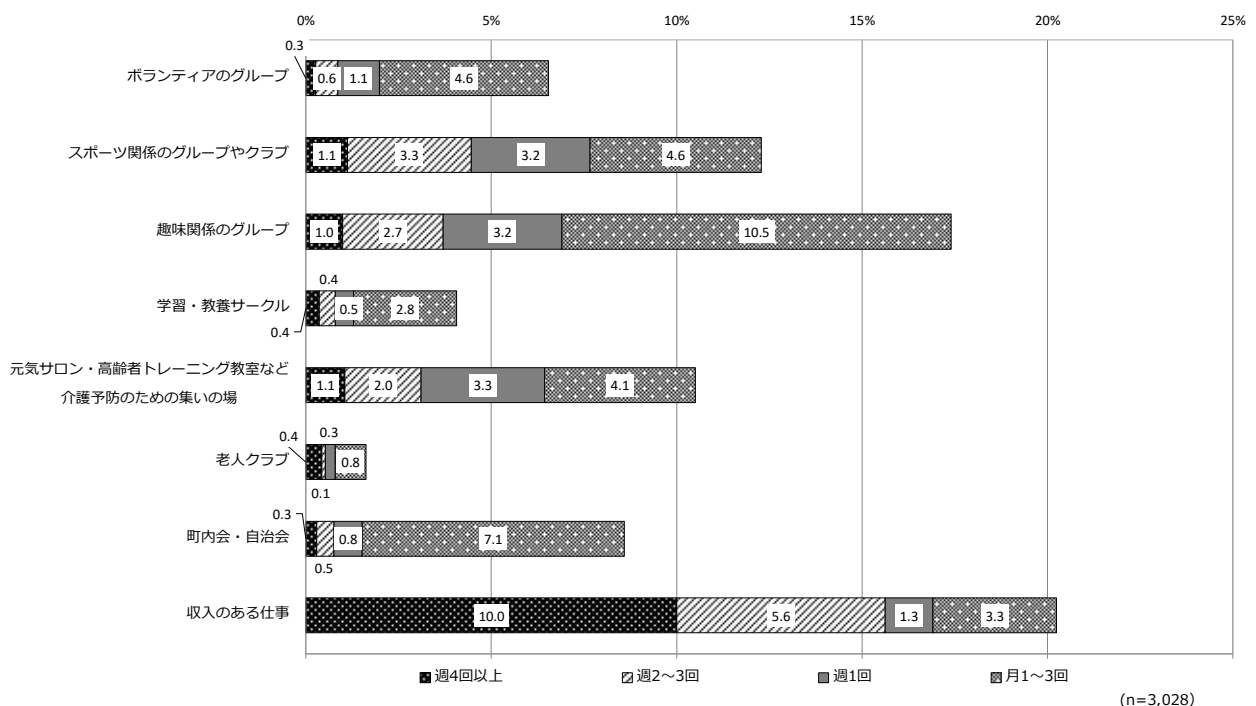
問：どのような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか（単数回答）

- ・「参加していない」が半数を超える会・グループは5つとなっています。
- ・これに対し、「参加していない」が50%未満となっているのは、「町内会・自治会」が37.2%、「収入のある仕事」が44.9%、「趣味関係のグループ」が48.5%などとなっています。
- ・参加回数が比較的多いのは、「町内会・自治会」の「年に数回」が26.1%、「趣味関係のグループ」の「月1～3回」が10.5%、「ボランティアのグループ」の「年に数回」が10.2%、「収入のある仕事」の「週4回以上」が10.0%などとなっています。

【地域活動への参加頻度（全データ）】

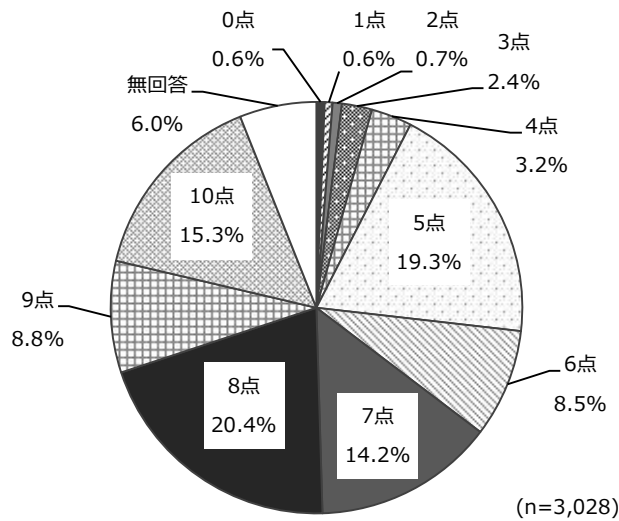


【地域活動への参加頻度（頻度が月1～3回以上のデータ）】



問：現在どの程度幸せですか（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）（単数回答）

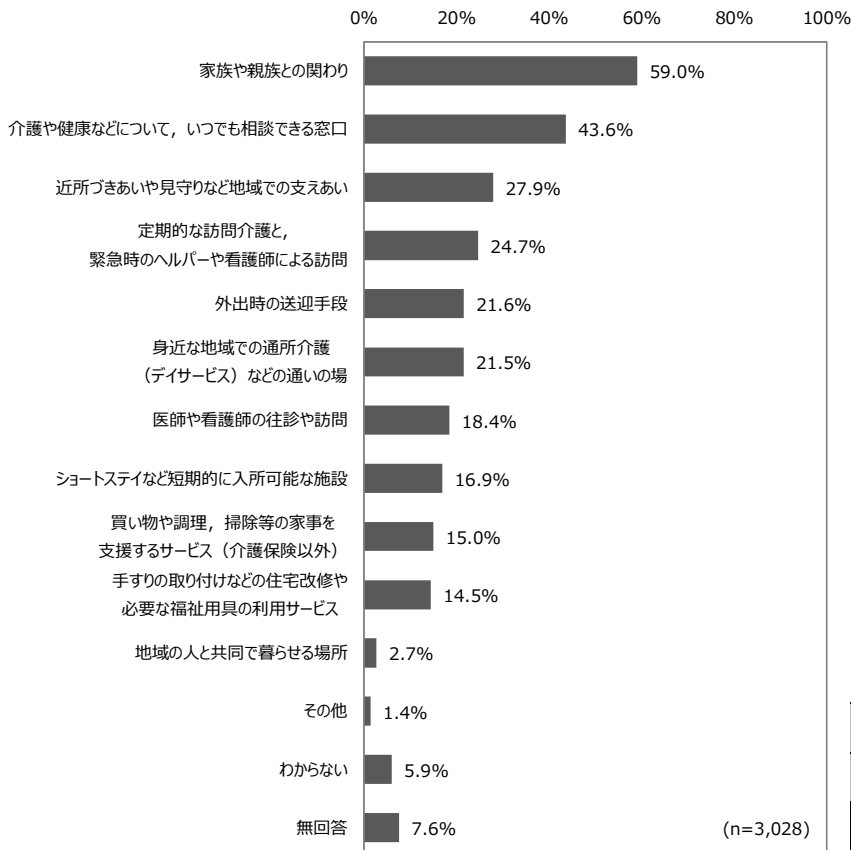
・「8点」が20.4%で最も多く、次いで「5点」が19.3%、「10点」が15.3%、「7点」が14.2%などとなっています。



問：在宅生活を続けるためには、主にどのようなことが必要だとお考えですか（複数回答）

・「家族や親族との関わり」が59.0%で最も多く、次いで「介護や健康などについて、いつでも相談できる窓口」が43.6%、「近所づきあいや見守りなど地域での支えあい」が27.9%などとなっています。

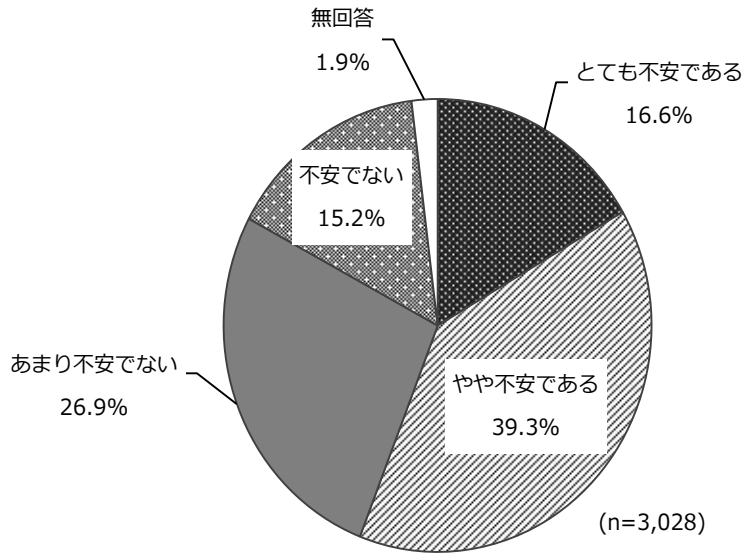
・「その他」としては、「施設入所」が3件となっています。



その他
施設入所（3件）
分からない、考えていない（2件）

問：転倒に対する不安は大きいですか（単数回答）

・「やや不安である」が39.3%で最も多く、次いで「あまり不安でない」が26.9%、「とても不安である」が16.6%となっており、回答者の半数以上が転倒に対する不安感があります。



(3) 前回〔令和2(2020)年度〕調査との比較

①前回調査から結果が「改善」した項目

項目	内容			
外出を控えている理由について	「病気」・「障害（脳卒中の後遺症など）」・「足腰などの痛み」と回答した割合は減少しています。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて外出を控えた人の割合が非常に多く、34.2%を占めています。			
	回 答	前回調査	今回調査	増減
	病気	17.2%	9.7%	▲7.5%
	障害（脳卒中の後遺症など）	2.7%	1.5%	▲1.2%
	足腰などの痛み	49.1%	33.4%	▲15.7%
	感染症対策	0.2%	34.2%	34.0%
歯の状況について	「自分の歯が20本以上で、入れ歯を利用していない」と回答した人の割合が増加しています。また、歯科医院への定期的な通院をしている人の割合が増加しています。			
	回 答	前回調査	今回調査	増減
	自分の歯が20本以上で、入れ歯を利用していない	29.2%	31.5%	2.3%
	歯科医院への定期的な通院をしている	37.2%	39.3%	2.1%
誰かと食事をしているかについて	「毎日ある」と回答した人の割合が増加しています。			
	回 答	前回調査	今回調査	増減
	毎日誰かと食事をしている	51.9%	53.4%	1.5%

②前回調査から結果が「悪化」した項目

項目	内容			
運動機能について	運動能力を問う3つの設問いずれも、「できる」と回答した人の割合が減少しています。			
	回 答	前回調査	今回調査	増減
	階段の上り下り	57.4%	56.8%	▲0.6%
	椅子からの立ち上がり	70.7%	70.2%	▲0.5%
	15分以上の継続歩行	66.3%	64.7%	▲1.6%
転倒について	過去1年間の転倒経験が「ない」と回答した人の割合が減少しています。回答者の55.9%の方が転倒に対する不安感があります。			
	回 答	前回調査	今回調査	増減
	過去1年間の転倒経験がない	63.2%	58.6%	▲4.6%
外出について	「ほとんど外出しない」割合と「昨年より外出が減っている」割合が増加しています。また、「外出を控えている」割合が非常に増えています。			
	回 答	前回調査	今回調査	増減
	ほとんど外出しない	6.2%	6.9%	0.7%
	昨年より外出が減っている	24.2%	35.4%	11.2%
	外出を控えている	20.8%	38.0%	17.2%

項目	内容																
飲食時の状況について	<p>「固いものが食べにくい」割合及び「お茶や汁物等でむせる」割合が増加しています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回 答</th> <th>前回調査</th> <th>今回調査</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>固いものが食べにくい</td> <td>29.8%</td> <td>33.2%</td> <td>3.4%</td> </tr> <tr> <td>お茶や汁物等でむせる</td> <td>24.0%</td> <td>28.6%</td> <td>4.6%</td> </tr> </tbody> </table>	回 答	前回調査	今回調査	増減	固いものが食べにくい	29.8%	33.2%	3.4%	お茶や汁物等でむせる	24.0%	28.6%	4.6%				
回 答	前回調査	今回調査	増減														
固いものが食べにくい	29.8%	33.2%	3.4%														
お茶や汁物等でむせる	24.0%	28.6%	4.6%														
認知機能について	<p>「物忘れが多いと感じる」の割合及び「自分で番号を調べて電話をかけることができない」の割合が増加しています。また、「今日が何月何日かわからないときがある」の割合が増加しています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回 答</th> <th>前回調査</th> <th>今回調査</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>物忘れが多いと感じる</td> <td>46.1%</td> <td>46.7%</td> <td>0.6%</td> </tr> <tr> <td>自分で番号を調べて電話をかけることができない</td> <td>10.0%</td> <td>10.8%</td> <td>0.8%</td> </tr> <tr> <td>今日が何月何日かわからない</td> <td>24.9%</td> <td>27.3%</td> <td>2.4%</td> </tr> </tbody> </table>	回 答	前回調査	今回調査	増減	物忘れが多いと感じる	46.1%	46.7%	0.6%	自分で番号を調べて電話をかけることができない	10.0%	10.8%	0.8%	今日が何月何日かわからない	24.9%	27.3%	2.4%
回 答	前回調査	今回調査	増減														
物忘れが多いと感じる	46.1%	46.7%	0.6%														
自分で番号を調べて電話をかけることができない	10.0%	10.8%	0.8%														
今日が何月何日かわからない	24.9%	27.3%	2.4%														
単独行動について	<p>「バスや汽車、車を利用して一人で外出できるか」及び「自分で食品・日用品の買物をしているか」に対し、「できるし、している」の割合が減少しています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回 答</th> <th>前回調査</th> <th>今回調査</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一人で外出できる</td> <td>75.1%</td> <td>71.5%</td> <td>▲3.6%</td> </tr> <tr> <td>一人で買い物できる</td> <td>82.6%</td> <td>79.2%</td> <td>▲3.4%</td> </tr> </tbody> </table>	回 答	前回調査	今回調査	増減	一人で外出できる	75.1%	71.5%	▲3.6%	一人で買い物できる	82.6%	79.2%	▲3.4%				
回 答	前回調査	今回調査	増減														
一人で外出できる	75.1%	71.5%	▲3.6%														
一人で買い物できる	82.6%	79.2%	▲3.4%														
新聞・雑誌の購読	<p>新聞や雑誌を読んでいるかに対し、「はい」の割合が減少しています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回 答</th> <th>前回調査</th> <th>今回調査</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新聞を読んでいる</td> <td>81.9%</td> <td>78.9%</td> <td>▲3.0%</td> </tr> <tr> <td>雑誌を読んでいる</td> <td>72.7%</td> <td>69.3%</td> <td>▲3.4%</td> </tr> </tbody> </table>	回 答	前回調査	今回調査	増減	新聞を読んでいる	81.9%	78.9%	▲3.0%	雑誌を読んでいる	72.7%	69.3%	▲3.4%				
回 答	前回調査	今回調査	増減														
新聞を読んでいる	81.9%	78.9%	▲3.0%														
雑誌を読んでいる	72.7%	69.3%	▲3.4%														
友人の家を訪ねているか	<p>「はい」の割合が大きく減少しています。新型コロナウイルス感染症の影響があるものと考えられます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回 答</th> <th>前回調査</th> <th>今回調査</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>友人の家を訪ねている</td> <td>55.3%</td> <td>45.7%</td> <td>▲9.6%</td> </tr> </tbody> </table>	回 答	前回調査	今回調査	増減	友人の家を訪ねている	55.3%	45.7%	▲9.6%								
回 答	前回調査	今回調査	増減														
友人の家を訪ねている	55.3%	45.7%	▲9.6%														
病人を見舞うことができるか	<p>「はい」の割合が大きく減少しています。新型コロナウイルス感染症の影響があるものと考えられます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回 答</th> <th>前回調査</th> <th>今回調査</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病人を見舞うことができる</td> <td>86.8%</td> <td>79.3%</td> <td>▲7.5%</td> </tr> </tbody> </table>	回 答	前回調査	今回調査	増減	病人を見舞うことができる	86.8%	79.3%	▲7.5%								
回 答	前回調査	今回調査	増減														
病人を見舞うことができる	86.8%	79.3%	▲7.5%														
若い人に自分から話しかけられるか	<p>「はい」の割合が減少しています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回 答</th> <th>前回調査</th> <th>今回調査</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>若い人に自分から話しかけられる</td> <td>75.9%</td> <td>72.6%</td> <td>▲3.3%</td> </tr> </tbody> </table>	回 答	前回調査	今回調査	増減	若い人に自分から話しかけられる	75.9%	72.6%	▲3.3%								
回 答	前回調査	今回調査	増減														
若い人に自分から話しかけられる	75.9%	72.6%	▲3.3%														

③その他の項目

項 目	内 容			
家族構成について	「1人暮らし」の割合がやや増加し、「息子・娘との2世帯」の割合は大きく減少しています。			
	回 答	前回調査	今回調査	増減
	1人暮らし	18.7%	20.2%	1.5%
	息子・娘との2世帯	24.2%	16.9%	▲7.3%
主な介護者について	「息子」と「子の配偶者」の割合が増加し、「娘」・「孫」・「介護ヘルパー」の割合は減少しています。			
	回 答	前回調査	今回調査	増減
	息子	25.1%	31.4%	6.3%
	子の配偶者	10.9%	14.2%	3.3%
	娘	28.7%	22.6%	▲6.1%
	孫	6.1%	3.5%	▲2.6%
外出する際の交通手段について	「自動車（人に乗せてもらう）」・「自転車」・「路線バス（市民バス・デマンドバス）」の割合が減少し、「自動車（自分で運転）」の割合が増加しています。			
	回 答	前回調査	今回調査	増減
	自動車（人に乗せてもらう）	24.4%	23.4%	▲1.0%
	自転車	12.1%	9.4%	▲2.7%
	路線バス	9.2%	6.7%	▲2.5%
経済的にみた暮らしの状況	「大変苦しい」・「やや苦しい」の割合が増加しています。			
	回 答	前回調査	今回調査	増減
	大変苦しい	6.6%	9.0%	2.4%
自身の介護が必要になった場合に介護を受けたい場所	「介護保険のサービスや福祉サービスを使いながら自宅で介護を受ける」と回答した人の割合が大きく増加しています。			
	回 答	前回調査	今回調査	増減
	介護保険のサービスや福祉サービスを使いながら自宅で介護を受ける	33.5%	39.5%	6.0%

(4) 圏域別の傾向

圏域	傾向（他4圏域との比較）
北部	<ul style="list-style-type: none"> 認知機能リスク保有者率（62.3%）、転倒リスク保有者率（43.7%）が最も高く、口腔機能リスク保有者率（22.5%）が最も低くなっています。 介護者が「配偶者（夫・妻）」である割合が最も多くなっています。 自身または家族の認知症の症状の有無に対し「はい」と回答した人の割合が最も多くなっています。 <p>認知症の相談窓口の認知度について「はい」と回答した人の割合が最も多くなっています。</p>
西部	<ul style="list-style-type: none"> 閉じこもりのリスク保有者率（5.8%）、認知機能リスク保有者率（56.3%）及び転倒リスク保有者率（35.8%）が最も低くなっています。 家族構成で「1人暮らし」の割合が最も多くなっています。 町内会・自治会の活動に「参加していない」人の割合が最も多くなっています。
中部	<ul style="list-style-type: none"> 生活機能全般リスク保有者率（22.0%）と運動器機能リスク保有者率（33.6%）が最も低くなっています。 介護・介助が必要となった主な原因として「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」の割合が最も多くなっています。 認知症の相談窓口の認知度について「いいえ」と回答した人の割合が最も多くなっています。
南部	<ul style="list-style-type: none"> 生活機能全般リスク保有者率（28.0%）、運動器機能リスク保有者率（42.3%）、閉じこもりのリスク保有者率（8.8%）が最も高くなっています。 家族構成で「1人暮らし」の割合が最も少なくなっています。 介護・介助が必要となった主な原因として「骨折・転倒」・「高齢による衰弱」の割合が最も多くなっています。 生きがいの有無について「生きがいあり」と回答した人の割合が最も多くなっています。
東部	<ul style="list-style-type: none"> 口腔機能リスク保有者率（27.2%）が最も高くなっています。 介護・介助の必要性に対し「必要ない」と回答した人の割合が最も少なくなっています。 町内会・自治会の活動に「参加していない」と回答した人の割合が最も少なくなっています。 自身または家族の認知症の症状の有無に対し「いいえ」と回答した人の割合が最も多くなっています。

【圏域の区分】

圏域名	地域
北部	君田, 布野, 作木
西部	三次, 河内, 十日市, 粟屋
中部	八次, 神杉, 和田, 田幸, 川西, 酒屋, 青河
南部	川地, 三和
東部	三良坂, 吉舎, 甲奴

(5) 男女別の傾向

項目	内容
主な介護・介助者について	<ul style="list-style-type: none"> 男性は「配偶者（妻）」が44.9%、女性は「配偶者（夫）」が14.0%となっています。女性は「息子」の割合が37.6%と最も多く、次いで「娘」が26.8%となっています。
外出について	<ul style="list-style-type: none"> 週1回以上外出している人の割合は男性93.4%、女性89.4%です。また、週2回以上外出している人の割合は男性が77.1%、女性65.3%で、男性の割合が11.8%多くなっています。
地域での活動について	<ul style="list-style-type: none"> 「町内会・自治会」への参加割合は、男性は47.8%と女性24.4%に対し2倍近くになっています。 その他の活動で男性が多いのは、「ボランティアのグループ」、「スポーツ関係のグループやクラブ」、「老人クラブ」となっています。一方、女性が多いのは、「趣味関係のグループ」、「学習・教養サークル」、「元気サロン・高齢者トレーニング教室など介護予防のための集いの場」となっています。 地域住民の有志としての参加割合は、「参加したい」が52.4%で男性が54.3%、女性が50.8%、年齢別では84歳以下で50.0%と高い割合を示しており、参加意向の高い79歳以下の世代が主導しつつ、80歳以上の世代や女性の参加を促すことで、地域づくりが活発になると考えられます。 地域の健康づくり活動等への参加意向では、参加者としてまたはお世話役として「ぜひ参加したい」と「参加してもよい」の合計割合は男性のほうが多くなっています。
各種機能低下リスクについて	<ul style="list-style-type: none"> 男性の「認知機能」と「社会的役割」のリスク保有者率が女性よりやや高くなっていますが、他のリスク保有率は女性の方が高くなっています。 特に「運動器機能」は、男性30.7%に対し女性は39.8%と高くなっています。

(6) 年齢における傾向

項目	内容
外出する際の移動手段について	<ul style="list-style-type: none"> 自動車を自分で運転する人は、75～79歳では73.3%、80～84歳では59.6%と減少していますが、85～89歳になると32.7%へと大きく減少しています。85歳以上になると歩行器・シルバーカーを移動手段としている人が増加しています。
各種機能低下リスクについて	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には加齢とともにリスク保有者率が高くなる傾向がみられます。 「認知機能」は80歳以上の6割を超える方がリスク保有者となり、「運動器機能」は85歳以上の6割を超える方がリスク保有者となっています。

3. 「在宅介護実態調査」から見る現状

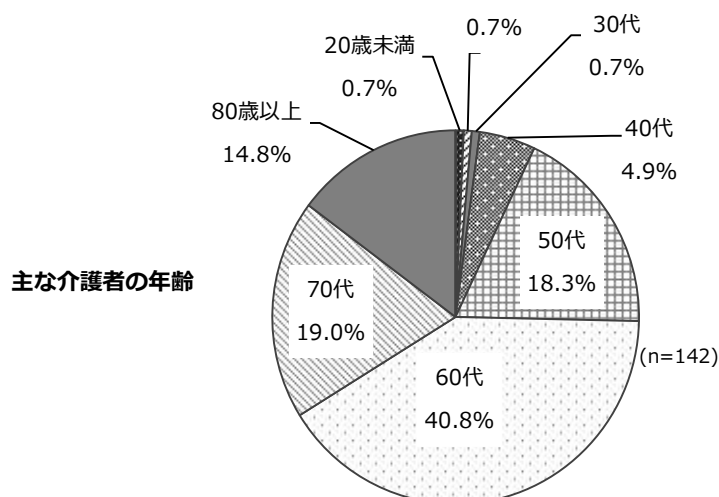
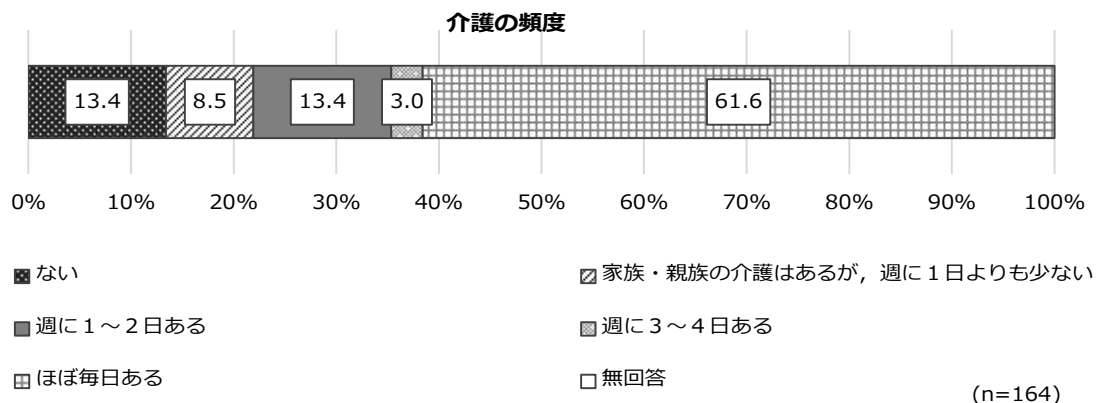
(1) 調査概要

区 分	内 容
調査目的	「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスのあり方の検討を行ううえでの基礎資料を得ることを調査の目的としています。
調査対象者	在宅生活の要支援・要介護認定者更新・区分変更申請者と主な介護者
調査期間	令和5(2023)年1月～令和5(2023)年2月
調査方法	認定調査員による聞き取り調査
回答数	164件

(2) 主な調査結果

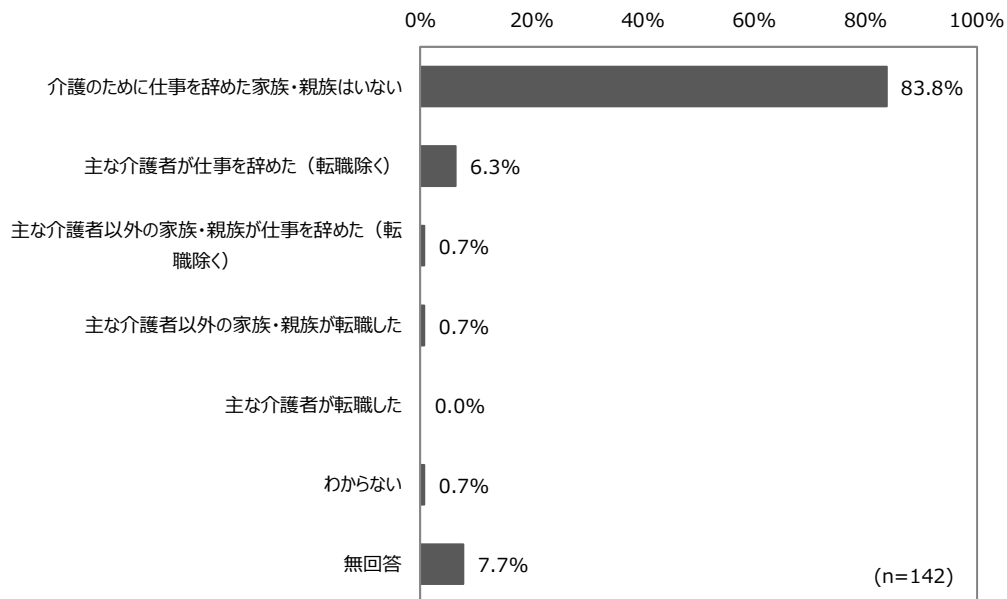
問：家族等による介護の頻度

・家族等による介護の頻度は、「ほぼ毎日ある」と回答した割合が61.6%を占めています。主な介護者の年齢は、60代が40.8%、70代が19.0%、80歳以上が14.8%となり、老老介護の状況が発生していることがうかがえます。



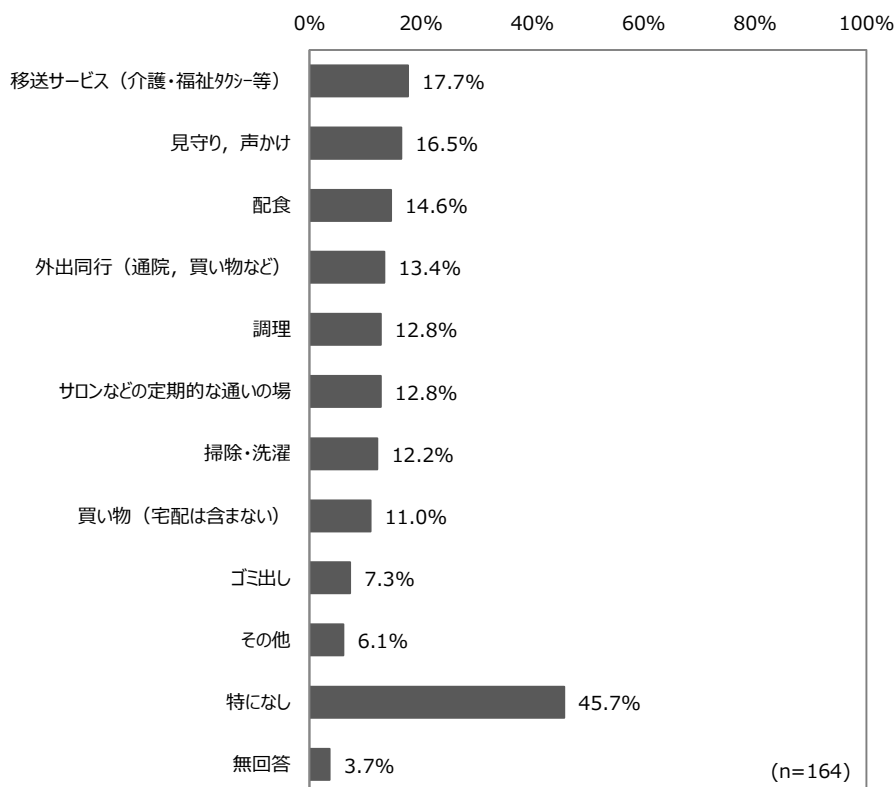
問：介護のための離職の有無

・介護のための離職の有無については、83.8%が仕事を辞めていないものの、「離職」が6.3%、「転職」が0.7%と、介護のために離職や転職をした人がいる結果となっています。

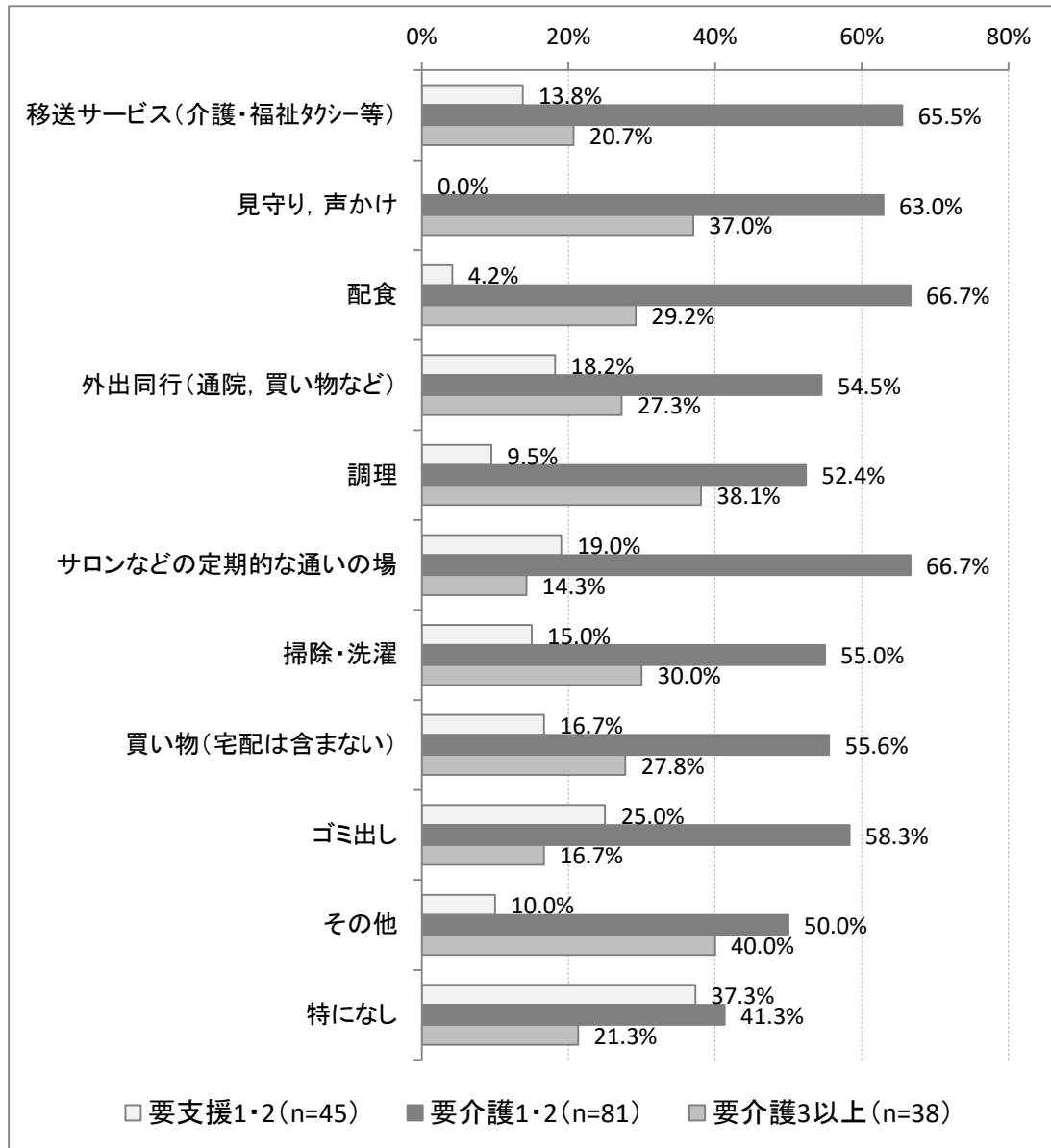


問：在宅生活の継続に必要と感じる支援

・今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援については、「移送サービス (介護・福祉タクシー等)」が17.7%と最も多く、次いで「見守り, 声かけ」が16.5%、「配食」が14.6%、「外出同行 (通院, 買い物など)」が13.4%などとなっています。
 ・「特になし」と回答した人が45.7%を占めています。
 ・「要支援1・2」, 「要介護1・2」, 「要介護3以上」で見ると、ニーズの順位が違います。

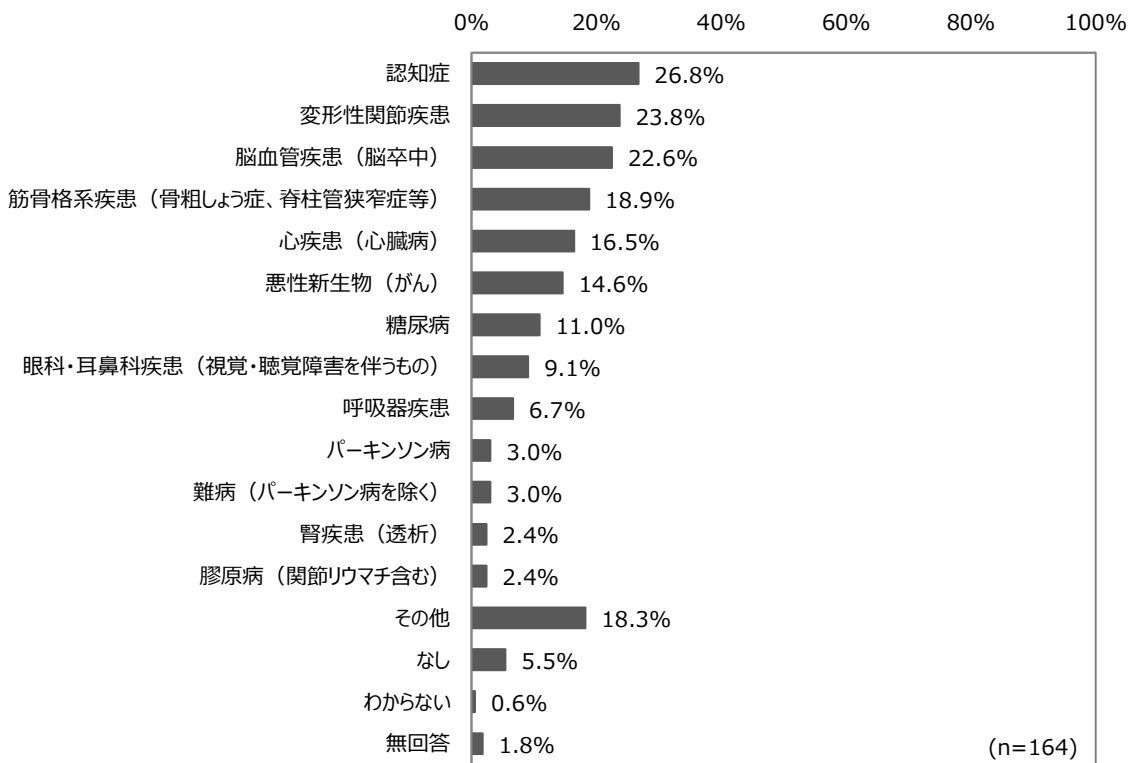


クロス集計【在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス×要介護度】（無回答を除く）



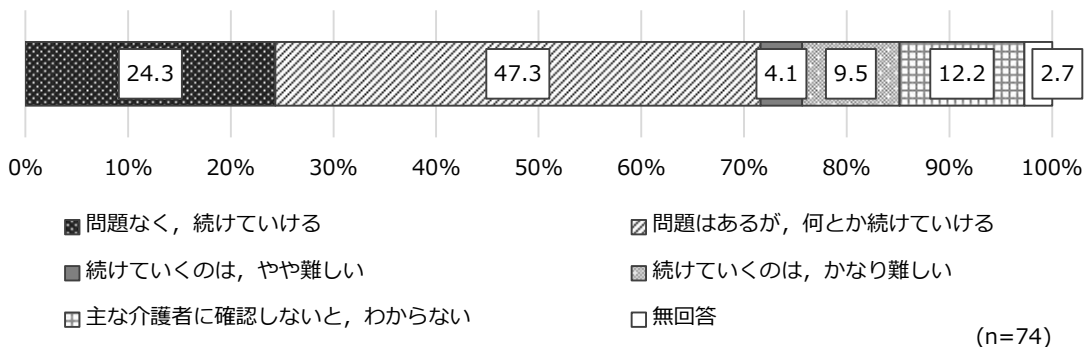
問：本人が抱える疾病

・認定調査対象者が抱える疾病に関しては、「認知症」が26.8%と最も多く、次いで「変形性関節疾患」が23.8%、「脳血管疾患（脳卒中）」が22.6%などとなっています。



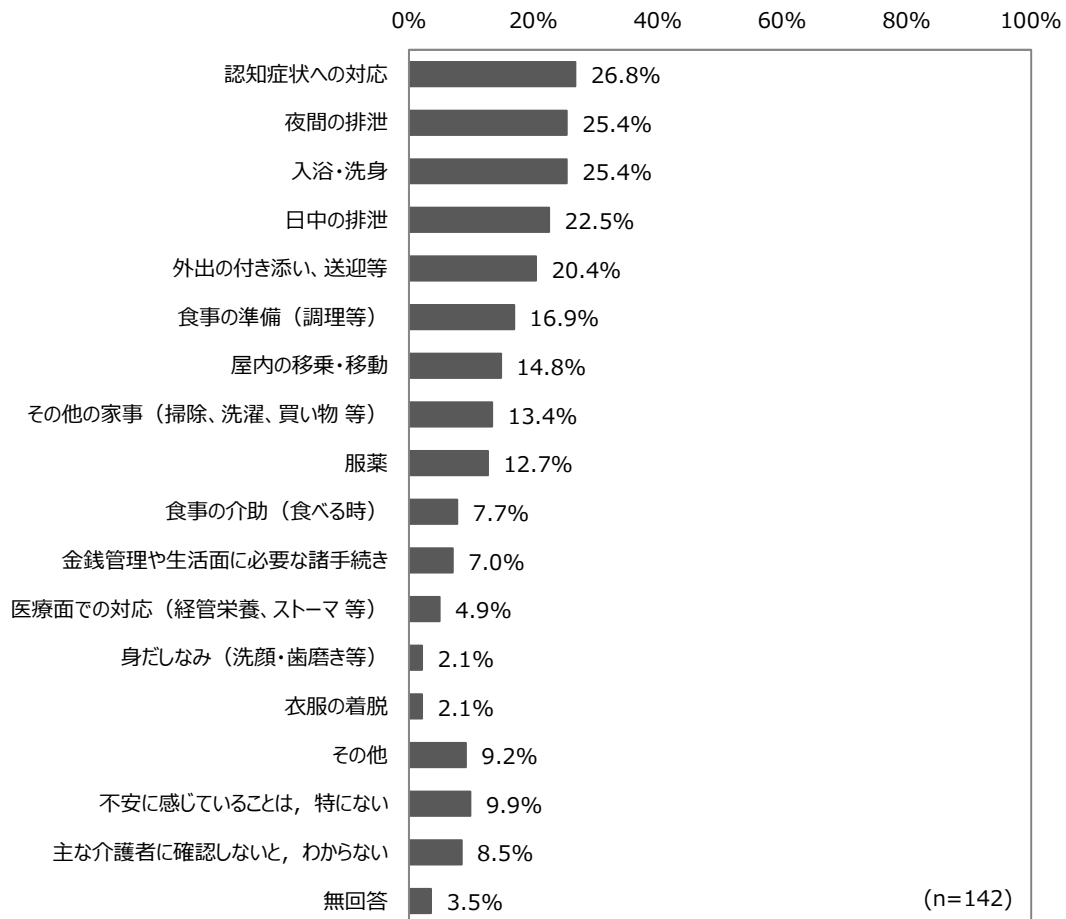
問：主な介護者の就労継続の可否に係る意識

・働きながら介護を続けることについて、「問題はあるが、何とか続けていける」という回答が47.3%と多いですが、「続けていくのは、かなり難しい」・「続けていくのは、やや難しい」と回答した割合が、合わせて13.6%あります。



問：今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

・現在の生活を継続するにあたり、主な介護者が不安に感じる内容としては、「認知症状への対応」が26.8%で最も多く、次いで「夜間の排泄」が25.4%、「入浴・洗身」が25.4%、「日中の排泄」が22.5%などとなっています。



4. 「介護保険サービス事業者調査」から見る現状

(1) 調査概要

区分	内容
調査目的	介護保険事業所の運営状況等、介護保険事業を実施する上での現状と課題を把握することを調査の目的としています。
調査対象者	市内で介護保険サービス事業を展開している51法人
調査期間	令和5(2023)年6月～令和5(2023)年7月
調査方法	メールによる調査票の配布及び回収(一部郵送による回収)
回答数	36法人(回答率:70.6%)

(2) 主な調査結果

①【市内事業所全体の令和4(2022)年度の平均稼働率】

区分	通所介護・地域密着型通所介護	通所リハビリテーション	小規模多機能型居宅介護	短期入所生活介護	短期入所療養介護
回答数	20法人	5法人	4法人	8法人	3法人
平均稼働率	59.9%	59.2%	84.4%	72.6%	61.3%

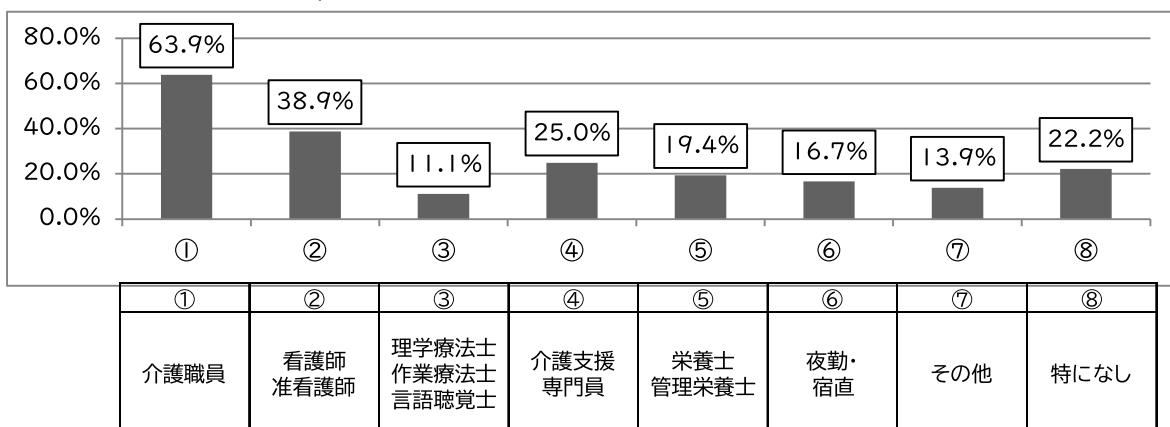
区分	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定施設入居者生活介護	認知症対応型共同生活介護	地域密着型介護老人福祉施設
回答数	8法人	4法人	6法人	6法人	2法人
平均稼働率	93.6%	88.3%	89.4%	96.0%	97.0%

②【施設・事業所を運営するうえでの問題点や課題】

- 施設系及び通所系サービス事業所では、現在、利用者数が回復傾向にありますが、コロナ禍では、感染拡大及び予防対策も含め、利用者の受入れが困難な状況があったことがうかがえます。また、施設においては待機者が少なく、待機者に連絡しても入所されないといった状況もあります。
- 多くの施設・事業所で人材確保と育成が困難となっており、夜勤等の変則勤務、送迎範囲の拡大や重度利用者へ対応する職員体制等への影響が見受けられます。長期化する物価高騰による負担の増加から、運営が厳しくなってきたという意見も多くありました。

③【人材確保に苦慮している職種】

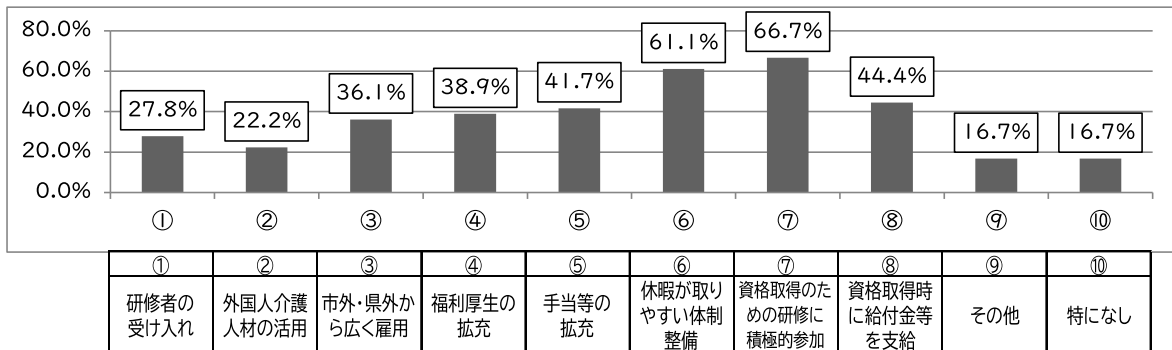
- 確保に苦慮している職種については、「介護職員」が63.9%と最も多く、次いで「看護師・准看護師」が38.9%、「介護支援専門員」が25.0%などとなっています。



※その他：調理員、送迎運転士、生活相談員、福祉用具専門相談員

④【人材を確保・育成するための対策】

- 人材を確保・育成するために行っている対策としては、「資格取得のための研修に積極的参加」が66.7%と最も多く、次いで「休暇が取りやすい体制整備」が61.1%、「資格取得時に給付金等を支給」が44.4%、「手当等の拡充」が41.7%などとなっています。



人材確保・育成のために必要となる対策に関する主な意見

- ・育児や介護などで変則勤務が難しい状況などを考慮した柔軟な受け入れや福利厚生の充実が必要。
- ・職員に外部の研修等に参加してもらい、既存の職員のスキルアップと新入職員の育成が必要。
- ・職員に研修等に参加してもらうため、事業所側からの促し、勤務時間扱いでの研修時間の提供。
- ・福祉介護の魅力発信。
- ・法人の垣根を超え、地域全体で介護・福祉を志す人材の育成・確保へ取り組む。
- ・職員の将来設計が見通せる処遇をめざす。

⑤【地域貢献活動について】

- ・地域貢献活動に取り組んでいると回答したのは86.1%となっており、地域の中で多様な人たちとつながりながら、事業者は地域との連携を進めています。
- ・しかし、人材不足等から活動を行う職員の日程調整が難しくなっているという状況もあります。本来業務を行いながら地域貢献活動を行っていくうえでの体制構築が難しくなっている状況もうかがえます。

⑥【新型コロナウイルス感染症が5類（感染症法上の位置づけ）に移行したことについて】

その後の事業運営において注意していることについての主な意見

- ・5類に移行しても新型コロナウイルスの感染力などが変わったわけではないので、以前と変わらない対策と注意を行っている。
- ・感染状況が定点把握になり、感染情報の把握が難しくなったため、職員、利用者の同居家族等の体調に変わりがないか注意している。
- ・マスクの着用は個人の判断となったが、引き続き誰がいつ感染してもおかしくない状況のため、感染症が発生しても継続してサービスが提供できるよう体制を整えている。